

旅人と家持
令和ゆかりの地を訪ねて



令和6年2月10日(土)
2023年度 太宰府大会
～ 令和の都 だざいふ ～
実績報告書

主催 令和の都だざいふ万葉大茶会実行委員会
共催 九州国立博物館
後援 福岡県、太宰府市
協賛 第一実業株式会社、株式会社エイブル、孫の手トラベル

助成 観光庁、太宰府市
協力 福岡市、九州大学 水素エネルギー国際研究センター
九州大学洋上風力研究教育センター
企画 一般社団法人 令和・家持ネットワーク協議会

令和の都だざいふ万葉大茶会実行委員会

ようこそ「令和の都 だざいふ」へ。 歴史とともに、皆様をお迎えいたします。

新元号「令和」の典拠となった万葉集「梅花の宴」を再現する

このプロジェクトは、日本最古の歌集たる万葉集、その編纂者とされる「大伴家持」の生涯にクローズアップします。幼少期に父である大伴旅人が赴任した地・大宰府にて、舶来の梅を植え、その梅花を愛でる酒宴を興じ、新元号「令和」の典拠ともなった「梅花の宴」を茶会形式で再現致します。記念すべき第1回は、2020年、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、国の特別名勝・特別史跡に指定されている会場周辺の中央区・浜離宮恩賜庭園で実施されました。

その後は、家持の人生ステージごとに、赴任地である富山県高岡市(2021年度・秋)→鳥取県鳥取市(2022年度・冬)→福岡県太宰府市(2023年度)→宮城県多賀城市(2024年度)と巡り、最後は関西地域ゆかり(大阪府・奈良県高市郡明日香村)の大阪万博(2025年度・没後 1240年)での開催を目指します。特に多賀城市は、2024年に「多賀城創建 1300年」を迎え、東日本大震災からの復興の意味でも象徴的イベントとなります。

実に万葉集では、約4500首のうち、1700首以上で動植物の歌が詠まれており、まさに三首に一首が、ありのままの自然に心を寄せた歌です。家持は、特に季節を意識して歌を詠んだ歌人であり、全20巻のうち、巻八と巻十は、「四季の景物」をテーマに編纂された巻となっています。また、家持の生きた時代は万葉時代の最後期、天平文化華やかになりし時代ですが、一方で権力争いも続いた時期です。そのため、万葉集には、北九州の防衛について「防人歌」や東国庶民の「東歌」といった、都びとだけでなく、多くの地方庶民の歌も含まれています。日本全国、その地域ならではの自然観や季節感を感じることができるのも万葉集の特色といえます。

こうした家持ゆかりの地域を巡り、和歌の世界観を知ることは、例え現代の生活環境や社会通念が変わろうとも、自然を尊び、人を愛し、死を悼む、といった、直接的で、素朴な日本人の心情に大きな隔たりがないことに改めて気づかされます。

環境問題が深刻なりし今こそ、古より自然を敬い、尊んできた日本人の精神性を問いなおすべきであり、「万葉集」は、それを学ぶ最高の教科書です。

また、本イベントでは、和歌に優れた英訳詩を付け、世界に発信も試みます。和歌を通し、家持の世界観を知ること、外国の方々も関西や太宰府だけでなく、そこから現存する家持ゆかりの他の地域へ足を運んで頂く新たなゴールデン・ルートの構築となるに違いありません。さらに、100年後の子供たちにも万葉集に詠まれる日本の四季が理解されるよう、自然環境や気候変動に配慮し、日本の最先端技術の結集である水素燃料電池より電源を調達し、CO₂を出さないように試みます。自然への敬意が、「万葉の時代から令和の時代」へと連綿と紡がれていることも重ねて発信致します。

本事業では、「令和の万葉大茶会」と連携し、
「観光庁 インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成支援事業」を活用しながら、
太宰府の観光振興・地域経済の活性化を目指します。



令和の都だざいふ万葉大茶会
実行委員会 会長
不老 安正

「初春の令月にして気淑く風和らぎ 梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫らす」

「令和」は、日本最古の歌集である万葉集に掲載された上記の歌を典拠とし、制定されました。そして、太宰府市は、その「梅花の宴」が実際に行われた地でもあります。「万葉集」・「梅花の宴」の原点と言えるこの地で、皆様をお迎えできることに、喜びと感謝を感じております。

万葉集の編纂者・大伴家持の父である大伴旅人が、大宰帥(長官)としてこの地に赴任していた時、当時めづらしかった梅の花を愛で、32首の歌を詠みあつた「梅花の宴」は、当時、13歳だった家持に影響を及ぼしたと考えられます。その後、大伴家持は成長し、「万葉集」の編纂者として、後世に名を残すとともに、日本に、唯一無二の文化資産を生み出すこととなります。

「令和の万葉大茶会」は、これまで、「東京」「高岡」「鳥取」にて開催されてまいりました。今回、コロナ禍以降、初めての開催を、「万葉集」・「梅花の宴」の原点である「太宰府」にて行わせていただくことも、新しい時代に向かって象徴的な事であると感じるとともに、厳しい状況下、

本事業のバトンをリレーしていただいた各地の大会関係者の皆様には深く感謝申し上げます。今回の太宰府大会を通じて、そのバトンを、しっかりと次の多賀城市様及び、それ以降に開催の地にお渡ししたいと考えております。

今回の大会では、その「梅花の宴」が行われたと言われる大宰府政庁跡にて、「梅花の宴 再現」を行います。オリジナルに限りなく近い場所で、古代の風景を現代によみがえらせる取り組みであり、太宰府ならではの自負しております。時期的にも、2月は梅のシーズンであり、「梅花の宴」が実際に開催された時期に近い時期となっています。

太宰府市には、万葉ゆかりの地として、「大宰府政庁跡」、「大宰府展示館」、「坂本八幡宮(大伴旅人邸候補の1つ)」を中心に、多くの施設があります。また、太宰府市のもう一つの観光の拠点である「太宰府天満宮」は、インバウンド観光客にも大変人気がある場所です。現在、「御本殿」は124年ぶりの“令和の大改修”が行われています。約3年間を要する大改修にあたり、その期間は御本殿前に「仮殿」が建設されておりますが、その造形美から、大変高い評価を得ています。今回は、限られた時間ではございますが、ぜひ、そうした地もご訪問いただければ幸いです。

未来へこの自然を伝えていくために、水素エネルギーを活用し、広く発信していきます。

旅人・家持親子のこの地での生活に思いをはせつつ、皆様とともに、文化・歴史・未来を共有できることを感謝し、あいさつの言葉とさせていただきます。



巻5・822 大伴旅人

わが園に 梅の花散る

ひさかたの 天より雪の 流れ来るかも

〔現代語訳 わが庭に梅の花が散る。天から雪が流れて来るのだろうか。〕

新元号「令和」は、万葉集巻五「梅花の歌」の漢文の「序」(じょ)からの出典です。

「初春の令月にして、気淑く風和らぎ、
梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす(梅花の歌三十二首并せて序)」

大宰府と万葉集

万葉集編纂者 大伴家持ゆかりの地域 太宰府を訪ねて



● 大宰府政庁跡



大宰府政庁跡は、7世紀後半から12世紀後半にかけて九州を管轄する行政機関であった「大宰府」の中心的な遺跡です。菅原道真の漢詩から、「都府楼跡」の名でも親しまれています。「大宰府」は万葉集の中で「遠の朝廷」と呼ばれ、その中枢となる大宰府政庁では、壁と回廊で囲まれた広大な空間に立派な建物と広場があり、重要な政務・儀礼が行われました。長い年月のなかで当時の建物は失われていますが、古代の重要な場であったことは地域の誇りとして受け継がれており、明治時代には大宰府を顕彰する3つの石碑が建てられています。現在は、日本の歴史を象徴する特に重要な遺跡であることから国の特別史跡に指定されて、周辺の景観を保持しながら文化財として保護されています。

● 水城跡



水城跡は、現在の太宰府市と大野城市の市境あたりに築かれた防衛施設「水城」の遺跡です。天智天皇2年(663)、日本は友好国であった百済を救援するために朝鮮半島に出兵したものの、唐・新羅連合軍に大敗を喫しました(白村江の戦い)。反撃を恐れた日本は、大急ぎで防衛のための施設・水城をつくります。水城跡は7世紀の緊迫した国際情勢を物語る遺跡であり、日本の歴史を象徴する特に重要な遺跡であることから、国の特別史跡に指定され、周辺の景観を保持しながら文化財として保護されています。水城館の前には、大伴旅人が3年間の大宰府任官を終え、都に戻る際に水城で詠まれたとされる歌の歌碑があります。

わが園に梅の花散る ひさかたの
天より雪の流れ来るかも

(巻五 822 大伴旅人)

● 坂本八幡宮



坂本八幡宮は、大宰府政庁跡の北西にある、応神天皇を祭る神社です。もとは戦国時代に建てられたと伝わり、坂本地区の守り神として地元の人々によって大切に守られてきました。この場所は、いま、新元号「令和」の発祥の地として注目を集めています。「令和」は、日本最古の歌集『万葉集』に掲載されている「梅花の歌三十二首あわせて序」を典拠として名づけられました。この歌が詠まれた「梅花の宴」は、天平2年(730)に大宰府の長官であった大伴旅人の邸宅で開催された宴でした。旅人邸の正確な場所は不明ですが、その候補地のひとつとして、坂本八幡宮の場所が考えられています。

● 太宰府天満宮



太宰府天満宮は、平安時代の9世紀後半に活躍した菅原道真を祭神とする神社です。日本や世界からも多くの参拝者が訪れています。天満宮神苑内(大茶会会場周辺)には、梅花の宴において詠まれた、大伴旅人が梅の花が散る様を雪に見立て詠んだ歌と、その歌に対する歌の2つの歌碑があります。

● 九州国立博物館



九州国立博物館は、太宰府天満宮の隣に建つ博物館です。太宰府への国立博物館誘致は地域の長年の夢であり、九州の政財界や地元住民の尽力によって、平成17年(2005)に実現しました。現在も「市民との共生」をテーマとして、地域と協力して運営されています。九州国立博物館のバス駐車場付近には、都に戻った大伴旅人に届いた沙弥満誓の歌への返歌として、旅人の帰京した心情を詠んだとされる歌の歌碑があります。

◆ 事業日程

2023年9月 実行委員会正式立ち上げ
2023年9月～2024年 委員会での協議

記念式典

会場：大宰府政庁跡

12:30～12:50

- ・主催者のあいさつ
- ・歓迎のあいさつ
- ・来賓のあいさつ



大宰府政庁跡

梅花の宴再現イベント見学

会場：大宰府政庁跡

13:00～14:00

梅花の宴のルーツ、太宰府にて、古代の風景を再現
大宰府展示館見学、坂本八幡宮見学
太宰府天満宮へ移動



太宰府天満宮

令和の万葉大茶会

会場：太宰府天満宮文書館及び旧東屋（うぐいす茶屋横）

14:30～15:30

太宰府天満宮参道を万葉衣装でパレード
「令和の万葉大茶会」開催(2会場)



九州国立博物館

講演会・大会キー伝達式

会場：九州国立博物館 ミュージアムホール

16:00～18:30

- ・基調講演① テーマ：令和のふるさとで未来を考える ～地域がはぐくむ環境ビジネスとくらし～
講演者：平尾 禎秀 様(環境省 環境経済課長)
- ・基調講演② テーマ：旅人と家持
講演者：上野 誠 様(國學院大學文学部日本文学科 教授(特別専任)、奈良大学 名誉教授)
- ・各参加自治体による挨拶
[東京都 狛江市、富山県 高岡市、鳥取県 鳥取市、宮城県 多賀城市、奈良県 高市郡明日香村、鳥取県 倉吉市、埼玉県 行田市]
- ・福岡県と太宰府市より、宮城県多賀城市へ大会キー(木筒)の伝達

交流会

19:30～ ホテル日航福岡(福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目18-25)

◆ 会場案内



大宰府政庁跡

◆ 令和の万葉大茶会

日時 令和6年2月10日(土)

会場 大宰府政庁跡

参加者 大会関係者 000人、一般見学者 000人



「梅花の宴」再現



730年、大宰帥 大伴旅人の邸宅に咲いた白梅の花を、客人たちがそれぞれ歌に詠んだ「梅花の宴」。ルーツである太宰府にて、大宰府万葉会を中心とした参加者が古代の風景を再現しました。



初春の令月にして
気淑く風和ぎ

正月立ち春の来らば
かくしこそ梅を招きつつ 楽しきを経め
(巻五 815 大武紀卿)

梅の花今咲けるごと 散り過ぎず
わが家の園にありこそぬかも
(巻五 816 少弐小野大夫)

梅の花咲きたる園の青柳は
護にすべくなりにけらずや
(巻五 817 少弐粟田大夫)

春さればまづ咲くやどの梅の花
ひとり見つつや 春日暮らさむ
(巻五 818 筑前守山上大夫(山上憶良))

世の中は恋繫しゑや
かくしあらば梅の花にも成らましものを
(巻五 819 豊後守大伴大夫)

梅の花今盛りなり
思ふどちかざしにしてな今盛りなり
(巻五 820 筑後守葛井大夫)

青柳梅との花を折りかざし
飲みての後は散りぬともよし
(巻五 821 笠沙弥(沙弥満誓))

わが園に梅の花散る
ひさかたの天より雪の流れ来るかも
(巻五 822 主人(大伴旅人))

梅の花散らしくはいづく
しかすがにこの城の山に雪は降りつつ
(巻五 823 大藍伴氏百代(大伴百代))

梅の花散らまく惜しみ
わが園の竹の林に鶯鳴くも
(巻五 824 少監阿氏奥島(阿倍奥島))

梅の花咲きたる園の青柳を
護にしつつ 遊び暮らさな
(巻五 825 少監土氏百村(土師百村))

うちなびく春の柳と
わが宿の梅の花とをいかに分かつ
(巻五 826 大典史氏大原)

春されば木末隠れて鶯ぞ
鳴きて去ぬなる梅が下枝に
(巻五 827 少典山氏若麻呂(山口若麿))

人ごとに折りかざしつつ 遊べども
いやめづらしき梅の花かも
(巻五 828 大判事丹氏麻呂)

梅の花咲きて散りなば
桜花継ぎて咲くべくなりにてあらずや
(巻五 829 薬師張氏福子)

万代に年は来経とも
梅の花絶ゆることなく咲きわたるべし
(巻五 830 筑前介佐氏子首)

年のはに春の来らば
かくしこそ梅をかざして 楽しく飲まめ
(巻五 833 大令史野氏宿奈麻呂)

梅の花今盛りなり
百鳥の声の恋しき春来たるらし
(巻五 834 少令史田氏肥人)

鶯の声聞くなへに
梅の花我家の園に咲きて散る見ゆ
(巻五 841 対馬目高氏老(高向老))

鶯の待ちかてにせし梅の花
散らずありこそ思ふ子がため
(巻五 845 筑前権門氏石足)

霞立つ長き春日をかざせれど
いやなつかしき梅の花かも
(巻五 846 小野氏淡理(小野田守))

万葉大茶会

会場：太宰府天満宮文書館及び旧東屋（うぐいす茶屋横）

水素エネルギーの活用

「人と環境にやさしい まほろばの里・太宰府」

令和の万葉大茶会 太宰府大会を開催するにあたり、梅の花をこよなく愛した歌人 大伴旅人と、万葉集を編纂し、自然の美しさに深い思いをこめた大伴家持の精神に基づき、電源には「水素エネルギー」を積極的に活用し、悠久の歴史と自然環境に配慮した大会運営をめざしました。



連携イベント「水素キッチンカーによる食事会」

場所：坂本八幡宮駐車場

「ブイヤベース試食会」

食事会では、福島県浪江町請戸漁港の鮮魚と、2024年1月1日の能登半島地震で被災した富山県高岡市の野菜で仕立てたブイヤベースが提供されました。



水素エネルギーを使ったキッチンカーでの調理風景



ブイヤベースの試食会

万葉大茶会 会場：太宰府天満宮文書館及び旧東屋



万葉パレード 場所：太宰府天満宮参道



万葉パレード 場所:太宰府天満宮参道



万葉パレードコース図



- 参加者
- ・万葉衣装を着た「梅花の宴」参加者 約40名
- ・旗を持った四神役 7名(先導及び安全注意)
- ・安全確認担当 4名

◆配布物

イベント告知チラシ (A4 片面)



参加証



紙バッグ

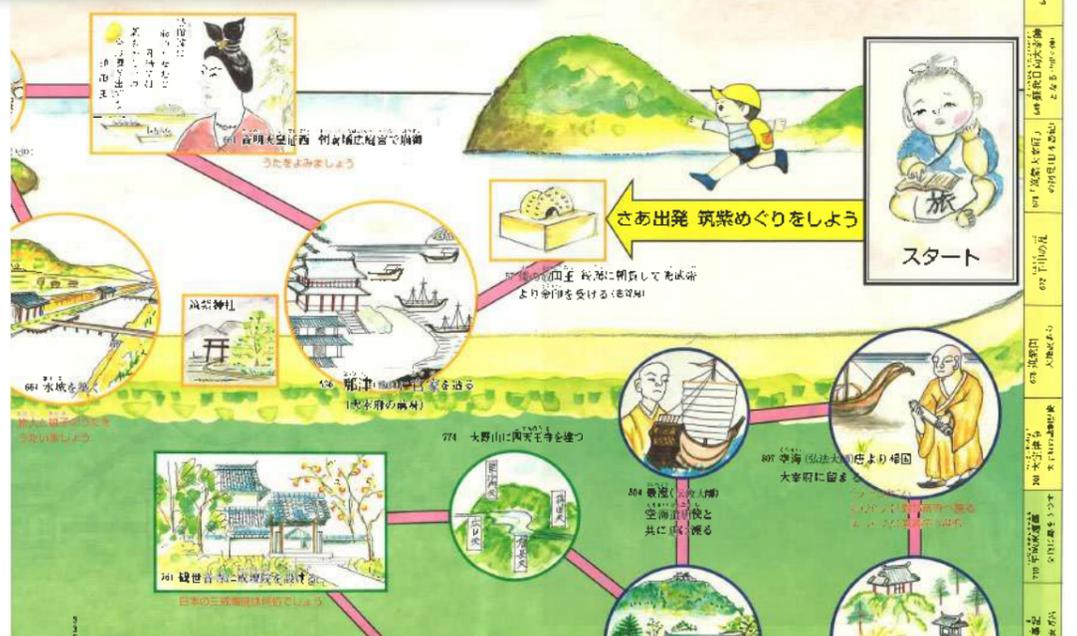


筑紫すごろく (93×61.8cm)



古代から現代に至る約1300年の太宰府の歴史を、すごろくにする事で誰にでもわかりやすくした。

絵 松尾 欣一郎
作 松尾 セイ子



中面(部分)

太宰府の香り・風景写真コンテストベストセレクションのポストカードをはじめ、特産の八女茶を使用したスイーツなどを記念品としました。



太宰府の香り・風景写真コンテスト ベスト・コレクション (ポストカード8枚組)



幸運のうそどり耳かき



茶論チョコサンド



茶論ワッフル



極上蔵出し煎茶

太宰府大会式典

記念式典

会場：太宰府政庁跡 12:30～12:50

● 主催者あいさつ



実行委員会会長
不老 安正 氏

● 歓迎のあいさつ



太宰府市長
楠田 大蔵 氏

● 歓迎のあいさつ



九州大学副学長
水素エネルギー国際研究センター長
佐々木 一成 氏

● 来賓あいさつ



環境大臣
伊藤 信太郎 氏

● 来賓あいさつ



観光庁
観光地域振興部観光資源課長
竹内 大一郎 氏

● 記念式典閉会のことば



令和の里 坂本八幡宮 宮司
御田 良知 氏

講演会

テーマ「令和のふるさとで未来を考える
～地域がはぐくむ環境ビジネスとくらし～」

テーマ「旅人と家持」



環境省 環境経済課長 平尾 禎秀 氏



國學院大學文学部日本文学科 教授(特別専任)
奈良大学 名誉教授 上野 誠 氏

◆ 各参加自治体のあいさつ

大伴家持ゆかりの自治体が、それぞれの歴史や文化などをプレゼンテーションしました。

- ①東京都狛江市 ②富山県高岡市 ③宮城県多賀城市 ④奈良県明日香村 ⑤鳥取県鳥取市 ⑥鳥取県倉吉市 ⑦埼玉県行田市

◆ 大会キー伝達式

奈良時代に墨で文字を書き記していた「木簡」をイメージしたもので、次回開催地に伝達されます。



服部福岡県知事より深谷多賀城市長に、大会キーが手渡された。



大会キー
[太宰府木簡]
制作/矢野和也(木芸士)
樹齢1000年を超える貴重な
屋久杉材を使用している。

◆大会キーについて

太宰府大会では、世界自然遺産である屋久島の屋久杉を使用し、木芸の工芸士が素材の美しさを活かす制作方法にて仕上げました。



わが園に梅の花散るひさかたの天より雪の流れ来るかも

(巻五 822 大伴旅人)



1.木取り



2.磨き



3.墨入れ
(木専用墨)



DATA

材料/世界自然遺産屋久島の樹齢 1000 年超の屋久杉材
(希少部位：あぶら木虎空) 使用

表面加工/屋久杉の最も美しい全部分を木取りしカンナやヤスリで削り、
空を美しく引き出す鏡面磨き加工

塗装/高級ウレタン加工 (下地ヤニ止め加工・厚みサンディング加工・
仕上げクリア加工) を合計 14 回塗装

制作者/

矢野和也 氏(株式会社太宰府工芸 代表取締役)

日本伝統工芸木芸士

美術年鑑(令和5年版・日本伝統木芸士 p.415)

表面

裏面

◆これまでの経緯とさらに未来へ



令和2年(2020年)、「令和の万葉大茶会 東京大会」
小池百合子東京都知事より、高岡市長(当時)に大会キーが伝達されました。



令和3年(2021年)、「令和の万葉大茶会2021高岡大会」
高岡市長から鳥取市長へ伝達されました。



令和4年(2022年)、「令和の万葉大茶会2022鳥取大会」



令和5年(2023年)、「令和の万葉大茶会2023太宰府大会」

大伴家持ゆかりの地域を、四季のラインでつなぎ、未来へ。

家持の人生ステージごとに赴任地を巡り、最後は関西地域ゆかりの大阪万博での開催をめざし、
大会キーも2025年に向けて伝達されていきます。

